

国語 第4学年 熟語の意味 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

熟語を漢字の意味から予想し、辞書と文脈で確かめて使う。漢字の意味を足した推測と辞書で確認した意味を区別する。単元の終わりに残すのは、熟語の意味の予想、辞書で確認した意味、自作文と直した理由。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)エ	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。

単元の目標

学習した漢字を語の中で読み、意味を確かめて文で使うことができる。文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確かめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字を語の中で読み、意味を確かめて文で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確かめている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（知・技②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○漢字の意味から熟語の意味を予想する。辞書と前後の文で確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○自分の文で使う。語の選び方を見直す。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確認することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」 【めあて】熟語を漢字の意味から予想し、辞書と文脈で確かめて使う。 〈予想される児童の反応〉 ・別々の漢字の意味から予想できる語がある。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」自分の文で使う。語の選び方を見直す。 熟語の意味の予想、辞書で確認した意味、自作文と直した理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・別々の漢字の意味から予想できる語がある。 ・足した意味だけでは分からない。 ・辞書の使い方の例を見て直したい。	既習漢字で構成された熟語を教師が選び、予想欄と確認欄を分ける。辞書の意味を自分の言葉で説明し、その意味に合う短い文を作って読み合う。 想定するつまずき：予想を辞書で確認済みの意味として書く、例文の場面を考えず語を入れる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確認している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・辞書の使い方の例を見て直したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、予想を辞書で確認済みの意味として書く、例文の場面を考えず語を入れる。この場合は、既習漢字で構成された熟語を教師が選び、予想欄と確認欄を分ける。辞書の意味を自分の言葉で説明し、その意味に合う短い文を作って読み合う。おおむね満足できる状況は、文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確認しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

熟語の意味の予想、辞書で確認した意味、自作文と直した理由。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」72行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

